

# 笛吹市探訪

## 『ふるさとの祭り』七 「道祖神祭り〜芦川の正月〜」



オヤマギ



道祖神祭り準備の様子

ふるさとの祭りシリーズ第7回は、芦川に伝わる正月行事と、毎年1月14日と7月14日に行われる道祖神祭りについて紹介します。伝統的な芦川の正月行事

芦川の正月を迎える準備は12月のスストリ（煤払い）から始まり、30日には多くの家で餅つきが行われ、歳神棚を準備します。それが整うと「オシンメイ」と呼ばれる杉の枝で作ったくす玉が家の各所に吊るされ、門松が飾られます。

大晦日は白米と尾頭付きの魚を食べ、夜は囲炉裏の火を絶やさぬよう太めの薪を用意します。

元旦を迎えると未明に戸主が水汲み場から若水を汲み、茶、雑煮

を作り、食事が済むと中芦川地区、鷺宿地区では氏神様に初詣をし、氏子総代の手で元旦祭が行われ、お神酒が振舞われます。

翌正月2日は仕事始めの行事が行われ、上芦川地区、中芦川地区では「オタウエ」と称し、農作業のまねごとを行います。

4日はお寺の住職が檀家まわりをしたことから「坊さんのご年始」と呼ばれます。また、女性が年始のあいさつにまわったことから「オナシノゴネンシ」とも呼ばれ、7日は「送り正月」、「ナナクサ」と呼ばれ、七草粥を作り、正月飾りを取り外します。

14日から16日の間は小正月と呼

ばれ、道祖神祭りなどの諸行事が催され、16日には小正月送りが行われます。

17日は、山の神の祭日として、また21日は「オカナムリオトシ」と称し、一切の山仕事を休みます。20日は「エビスダイコク」、「ハツカシヨウガツ」と称し、正月最後の行事を楽しみます。

これらの正月行事の中には、現在行われなくなったものもあります。道祖神祭り

芦川の道祖神祭りは毎年1月14日と7月14日に行われます。上芦川地区では14日の昼頃、山から「オヤマギ」と呼ばれる杉や檜を切り出し、道祖神場で飾り付けして立てます。また、ツガやモミの枝で「お小屋」と呼ばれる神輿を作ります。

祭りの飾りが整うと、祠堂と呼ばれる神輿小屋から神輿を担ぎ出し、上芦川地区の旧家である霜村家に向きます。

霜村家を出た神輿は、町中を練

り歩き、祭場に鎮座します。

あたりが暗くなるとドンドン焼きが始まり、各家の茅や正月飾りを燃やし、また書初めも燃やします。お小屋も燃やされ、持ち寄ったマユダンゴを焼いて食べます。ドンドン焼きの残り灰は翌日朝に各家の庭に撒き、17日に再び神輿が霜村家に向き、神輿は祠堂に戻され、オヤマギも取り壊されます。オヤマギに吊るされた腰紐を若い衆が取り合い祭りは終了になります。

道祖神祭りの今

今では、上芦川地区の道祖神祭りにオヤマギは立てられなくなり、霜村家に神輿が出向きすることも無くなりました。新井原地区でも「サイトウギ」と呼ばれる御神木を立てなくなりました。中芦川地区では今でもオヤマギが立てられています。鷺宿地区では道祖神祭り自体が途絶えています。

道祖神祭りに関わる人々も年々高齢化が進み、若い衆の手で行われてきた祭りは今や高齢者の手により守られています。この伝統ある祭りを後世に残すためにも、今一度地域の行事に目を向けてみてはいかがでしょうか。